

蕪工 ニュース

県立蕪崎工業高等学校
第 124 号

総務部

2014.12.12

ロボコンやまなし上位独占

“地震その時あなたは”講演会開催
訪問ボランティア開催

ロボコンやまなし開催

今年も11月23日(日)、アイメッセ山梨にてロボコンやまなしが行われました。高校生が参加できる三部門は、過去2年連続蕪崎工業高校が上位を独占していましたが、去年は優勝が一部門のみとなってしまうため、今回はまた気を引き締めて大会に臨みました。結果は以下の通りですが、今年は例年以上に良い結果となりました。



ペットボトル立て競技の部

この部門は、リモートコントロールによりペットボトルをゴールに立てる競技ですが、本校6台(M・S科4台、J科2台)、甲府工業6台など6高校から24台がエントリーしました。予選で8台が勝ち上がりましたが、本校からは4台が残り、ベスト4には3台が残りしました。そして決勝は本校同士の戦いとなりましたが結果は以下の通りとなりました。

優勝(知事賞)	蕪工J1号	(情報技術科)
2位(教育長賞)	蕪工MS1号	(電子機械・システム工学科)
3位(電子機械工業会長賞)	蕪工MS4号	(電子機械・システム工学科)
ベスト8(山日社長賞)	蕪工MS2号	(電子機械・システム工学科)

ソーラーカー競技の部



ロボコンやまなし2014高校生の部Ⅱ(ソーラーカー)競技に、電子機械科・システム工学科の生徒が製作した3台のロボットが出場しました。ソーラーカー競技とは、スポットライトの光で発電したエネルギーを使い、コース上に引かれた黒いラインをセンサーで読み取りゴールを目指す競技です。充電時間とゴールまでの合計タイムを競います。今年度は県内の工業高校などから15台のロボットが出場しました。まず予選が行われ本校が製作した「蕪工1号」、「蕪工2号」、「蕪工3号」はそれぞれ5位、3位、2位を獲得し、全てのロボットが上位8台で競う決勝に進出しました。

決勝では優勝するために充電時間を大幅に短縮した「蕪工2号」が1分14秒の歴代最高タイムで1位、「蕪工3号」は1分17秒の記録で2位、「蕪工1号」が1分46秒の記録で5位を獲得することができました。充電時間の短縮は途中で停止してしまうリスクもありましたが、無事全てのロボットが完走して結果を残すことができました。今年初めて「蕪工2号」は規定内の大きさに3枚の太陽電池を搭載することに成功し、年々技術が上がっています。来年も記録の更新できるようにさらに挑戦していきます。

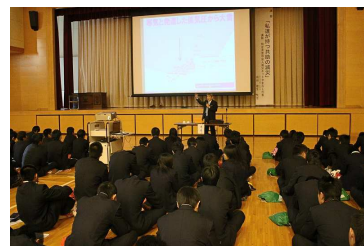
自由参加の部（対戦型球入れ競技）

制御工学科課題研究ロボット製作班及びロボット工学部員総勢10名は、夏休み以降「ロボコンやまなし」へ出場する球入れロボットを製作しました。しかし、進路等に追われ、思うように進まず、構想は幾つもありましたが、実現には多くの困難がありました。お手玉を拾う部分は、掻き込み型、ハサミ型、先端部に針を付けたものなど多種にわたりました。問題はお手玉を「1mの高さにあるカゴにいかに入れるか」です。どの案もあと一步で、昨年同様2つの車輪を回し、その間に球を送り込み飛ばす方式にしました。また、今回はより高く飛ばそうと車輪に工夫を加えました。この工夫（企業秘密）により、天井に当たるぐらいになりました。ただ、決まった位置に正確に飛ばすために、「試し」「改善」を何回も繰り返し、3分間にMAX9個ほど入れられるロボットが完成しました。その結果、予選終了時にベスト4を独占し、優勝、準優勝、アイデア賞をいただきました。思ったことは、「ロボット作りは楽しいが、アイデアを実現するのは難しい」でした。来年も多くの後輩達が挑戦してくれることを願っています。



福祉講話開催“地震に強い環境づくり”

12月3日（水）に、山梨大学客員教授の向山建生氏による「私達が持つ共助の減災」の福祉講話を実施しました。はじめに、日本を取り巻く地震構造や上祖母石地区の説明がありました。減災の意味と、自助・共助・公助の備えや訓練の大切さを学びました。阪神淡路大震災では、翌年に内閣府が



「減災の手引き」を出して自助と共助の必要性を訴えたそうです。講話では、「防災と減災」について説明もあり、公的機関と住民・企業の相互の情報交換と協働の取り組みが必要不可欠と話されていました。韮崎市は、平成23年の東日本大震災を契機に「減災力の強いまちづくり」を宣言しました。最近では地元の一小学校をモデルとした具体的な動きもでているようです。今後、地域防災計画を基盤として、その活動も人と人との繋がりにより広まっていくことになるでしょう。

訪問ボランティアに参加

12月4日（木）に、ボランティア委員27名が冬季福祉ボランティア活動に参加しました。韮崎社会福祉協議会と連携をとり、地域に在住する一人暮らし等、4軒の高齢者宅を訪問し、清掃活動や奉仕活動をしました。今回は、草取りや窓ふき、高い所の掃除、蛍光灯取替を中心に作業をしました。また、新たにテレビや扇風機の修理も含めた作業もありました。小雨の中、黙々と作業をこなす姿に生徒の一生懸命さが伝わりました。マスコミ取材（YBS、UTY、CATV等）のインタビューに今回、最後の作業となる3年生達は、「大変だったけれども今まで良い経験ができた。人の役に立てることをして喜んでもらえることはうれしい」と答えていました。今回も地域に根差す活動を通じて、高齢者への生徒の優しい気持ちが伝わるボランティア活動を行うことができました。



URL <http://www.nirasakith.kai.ed.jp>

e-mail info@nirasakith.kai.ed.jp